

# パンデミックの備えに関するG7合意

## 概要

### □ 概要(議論の経緯とドイツG7での議論)

- 今般のパンデミックの収束と将来の健康危機に適切に対応していく上で、変異株や病原体を早期に発見することが重要。そのためにはヒト・動物・環境など様々な分野における検査情報・データを統合し早期発見するといった、ワンヘルスアプローチに基づくサーベイランス・システムの集約が必要。
- 他方、これまでもCOVID-19対策として、様々な国際会議体や国際枠組においてCOVID-19収束に向けた取組が存在。
- こうした背景を踏まえ、G7としてはそれら様々な取組の統合を目指し「Pact for pandemic readiness (パンデミックへの備えに関するG7合意)」という成果文書に合意。

### □ 趣旨

- サーベイランスの集約と予測可能で迅速な対応を強化し、世界的なパンデミックへの備えの強化を目指す。
- 2022年下半期にWHOとG7による三度の技術者会合を開き、G7としてパンデミックへの備えのために協働で進めるべき取組のロードマップの合意を目指す。

### □ サーベイランスの集約

- AMR、HIV、TB、マラリア等、様々な病原体のモニターを分野や垣根を越えて統合し、相互運用可能な形で情報管理を統合。
- サーベイランスにおけるイニシアティブの世界的な連携を促進。各プロジェクトの相乗効果の最大化を目指すと同時に重複を防ぎ、感染症コントロールにおけるネットワークを強化。  
(例) 変異株や病原体は人間、動物、環境など様々な所を起源として発生するため、それらを早期発見するためにも分野や垣根を越えたサーベイランスネットワークを支援・強化。

### □ 予測可能で迅速な対応

- パンデミックの発生時に迅速に対応できる専門家集団の養成支援。
- 詳細不明な感染症流行や国際的に懸念される健康危機の調査に際し、WHO派遣の評価団体への協力に参画。
- ワクチン・診断薬・治療薬にかかる研究開発や製造努力の加速・拡張。  
(例) 規制過程の調整、研究・開発の促進、製造能力の拡張・維持(低中所得国における製造能力の拡張も考慮)